

(注)「コモロ連合月報」は、新聞報道等をまとめたものであり、当館として事実関係を確認したものではありません。記事中にコモロ政府の公式見解と異なる内容が含まれる場合もあるため、予めご留意願います。なお、各記事冒頭の日付は、報道された日付となっています。

コモロ連合月報（2025年9月）

《要点》

【内政】

●23日 Al Watwan 紙によると、政府は30日から、公務員の週勤務日を従来の6日から5日に短縮する新制度を導入する。月～木は8時～12時と13時～17時、金曜は8時～12時勤務とし、ラマダン期間は短縮時間で運用。改革は生産性向上と行政の近代化を目的とし、管理部門に人事システムやITを活用した監督体制も整備される。

【外政】

●5日 Al Watwan 紙によると、10月にモスクワで開催されるロシア・アラブ首脳会議に、アザリ大統領が出席する予定であることが明らかになった。アザリ大統領は4日にロシアのアンドレーエフ大使と会談し、マイヨット島の主権問題、ロシア大使館のモロニ開設（2026年末予定）、ロシア・アフリカ閣僚会議への外相招待などを協議。

●23日 Al Watwan 紙によると、国連総会出席のためニューヨークを訪れているアザリ大統領は22日、グテーレス国連事務総長と会談し、1975年以来フランスが「不法占拠」していると主張するマイヨット島問題を協議した。大統領は仏当局による取り締まりが一部遭難を招いたとの報道に触れ、島周辺の海域での多数の死者を嘆くとともに、国際法を尊重した対話による解決を模索するため国連の支援を要請。グテーレス氏はコモロ側のリーダーシップを評価し、国連が特別委員会を通じて公正で持続可能な解決に取り組む姿勢を確認した。

●25日 Al Watwan 紙によると、アザリ大統領は、国連演説で現代世界における普遍的価値の崩壊と国際社会の無力さに強い懸念を示し、特にガザでのジェノサイドやマイヨット島での意図的な難破行為、パレスチナ問題、そしてアフリカの植民地主義の残滓としてのマイヨット問題に焦点を当てた。パレスチナに対するイスラエルの軍事行動を「ジェノサイド」と非難し、国際社会の沈黙を厳しく批判。マイヨットについては、フランスの占拠を違法とし、意図的な死亡事故の責任追及を要求した。また、小島嶼国の気候変動に対する脆弱性や、コモロの開発計画「PCE」への支援を訴えるとともに、アフリカが国連安保理に正当な地位を得るべきだと主張。

●26日 Al Fajr 紙によると、マダガスカルでの抗議活動が激化する中、同地に居住するコモロ人コミュニティ、特に多数を占める留学生たちは、治安の悪化により日常生活に深刻な不安を抱えている。彼らは、政府に対し早急な対応と緊急帰国計画の策定を強く求めている。他方、現時点でコモロ政府は外交的声明の発表にとどまり、具体的な措置は取られていない。このため、現地では「2009年のような事態を繰り返してはならない」と危機感が高まっている。学生たちは自分たちの安全と将来が軽視されていると感じ、次の閣議で本件が真剣に扱われることを切実に願っている。

【経済】

●12日 Al Watwan 紙によれば、新たに就航するフェリー「ヤメーラ」の就航式がグランドコモロ島の国際港で行われ、アザリ大統領やUAE大使らが出席した。全長54メートル、乗客190人・車両45台を収容できるこの船は、ムツァムドゥとモロニ間の海上交通を担い、既存の船「アカディ」と「マリア・ガランタ」を補完する。

【社会】

●3日 Al Fajr 紙によると、コモロ大学では教員の審議や再試験拒否による無期限ストライキが2か月以上続き、2025～2026年度の新学期開始が深刻に危ぶまれている。

教員側の主な要求は、未払い給与の支払い、労働条件の改善、待遇の正当認定などであり、一方的な学費前払いの大幅引き上げも学生・家族の反発を招いている。

●29日 La Gazette 紙によると、運輸労働組合「Wusukani wa Masiwa」と商業組合「SYNACO」が、政府の交通政策や経済負担増に抗議し、10月1日から無期限の総ストライキを呼びかけた。主な要求は、交通違反罰金の大幅引き上げの撤回、右ハンドル車の規制に伴う補償措置、議会を通さず実施された関税引き上げの見直しなどで、生活コストの上昇に対する広範な不満が背景にある。ストは運輸部門にとどまらず、他の分野にも波及する可能性が指摘されている。

●30日 Al Watwan 紙によると、数週間にわたるストライキの末、コモロ大学の教員組合 Sneuc は教育省との一部合意を受けて無期限ストライキの一部解除を決定し、2024-2025年度の終了に向けて審議会の開催や追試の日程確定など段階的に学内活動が再開されることになったが、いまだ未解決の要求も残されており、2025-2026年度の新学期が公式に開始されたにもかかわらず、前年度の結果も出ていない状況に対し、一部の学生からは省の対応の不透明さや無関心さに対する不満の声が上がっている。

1 内政

2日 Al Watwan 紙によると、アザリ大統領は、ムワリ島南部のニューマシワに太陽光発電を使った冷蔵施設を正式に開設した。施設は世界銀行が支援する東アフリカ地域のプロジェクトの一環で、国内に8つの同様の施設が設置されている。

<https://alwatwan.net/societe/p%C3%A4che-azali-assoumani-inaugure-la-chambre-froide-solaire-de-nyumashiwa.html>

22日 Al Watwan 紙によると、グランドコモロ島のムロジュ宮殿で、平和構築と地域間対立の予防を目的としたフォーラムが開催された。知事の主導で、NGO「サラーム」、市長協会、自治体警察連合が共催し、「平和の文化を促進する」をテーマに地域間の対話と平和の重要性が議論された。知事は、包括的な平和政策の推進と社会的結束の強化が必要だと訴え、新設された「紛争予防・管理委員会」が早期警戒と対話を通じて地域の平和維持に貢献することを目指している。

<https://alwatwan.net/societe/gouvernorat-de-ngazidja-i-un-forum-pour-consolider-la-paix-et-pr%C3%A9venir-les-conflits-intercommunautaires.html>

23日 Al Watwan 紙によると、政府は30日から、公務員の週勤務日を従来の6日から5日に短縮する新制度を導入する。月～木は8時～12時と13時～17時、金曜は8時～12時勤務とし、ラマダン期間は短縮時間で運用。改革は生産性向上と行政の近代化を目的とし、管理部門に人事システムやITを活用した監督体制も整備される。

<https://alwatwan.net/societe/administration-publique-i-les-nouveaux-horaires-applicables-d%C3%A8s-le-30-septembre.html>

23日 Al Watwan 紙によると、エネルギー・水・炭化水素省は17日、上下水道分野の統一介入枠組み（CUI）の全国承認ワークショップを開催。地域のエネルギー局長や技術者が参加し、フランス開発庁6.5百万ユーロの支援で進められる水ガバナンス強化プロジェクトの一環として実施された。

[https://alwatwan.net/societe/energie-validation-nationale-du-cadre-unifi%C3%A9-d%E2%80%99intervention-\(cui\).html](https://alwatwan.net/societe/energie-validation-nationale-du-cadre-unifi%C3%A9-d%E2%80%99intervention-(cui).html)

29日 Al Watwan 紙によると、2025年の気候変動枠組条約第30回締約国会議（COP30）を前に、温室効果ガス削減と気候変動への適応策を示す「国が決定する貢献（Cdn）」の内容を改定中。社会経済や環境の変化を反映し、農業やエネルギー、水資源など脆弱な分野を重点に据える。国連や各種パートナーの支援を受け、政府・民

間・市民社会の連携を呼びかけており、今回の改定は持続可能な開発目標や国家適応計画とも連動。

<https://alwatwan.net/societe/changement-climatique-i-les-comores-r%C3%A9visent-leurs-cdn-avant-la-cop30.html>

2 外政

3日 Al Watwan 紙によると、9月下旬に開催される第80回国連総会に向け、コモロでは独立と国連加盟50周年を背景に自国の歩みと立場を発信する好機と捉えている。大統領外交顧問ジャエ・アハマダ・チャンフィは、多国間主義への貢献や「コモロ新興計画」の提示を強調しつつ、フランスによるマイヨット占拠問題が依然として存在のかつ中心的課題であると指摘。

<https://alwatwan.net/politique/djae-ahamada-chanfi-%C2%ABla-question-de-mayotte-reste-centrale%C2%BB.html>

4日 Al Watwan 紙によると、カナダの新大使エミリー・バーンズがアザリ大統領に信任状を提出し、歓迎を受けた。バーンズ大使は、カナダとコモロの協力強化に意欲を示し、再生可能エネルギー、気候変動適応、教育分野での連携を推進する方針を表明。特に高等教育が議題となり、大統領はカナダの支援による大学間交流や学生派遣、教員招聘の再開を希望し、国連総会に合わせてカナダ首相との会談も予定している。

<https://alwatwan.net/politique/diplomatie-i-une-nouvelle-ambassadrice-du-canada-%C3%A0-moroni.html>

4日 La Gazette 紙によると、サウジアラビアのガラマ新大使がモロニでの外交任務を開始。教育やインフラ、再生可能エネルギー分野での協力が期待されている。

<https://mail.lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/diplomatie-mohamed-gharamah-prend-ses-fonctions-aux-comores-.html>

5日 Al Watwan 紙によると、10月にモスクワで開催されるロシア・アラブ首脳会議に、アザリ大統領が出席する予定であることが明らかになった。アザリ大統領は4日にロシアのアンドレーエフ大使と会談し、マイヨット島の主権問題、ロシア大使館のモロニ開設（2026年末予定）、ロシア・アフリカ閣僚会議への外相招待などを協議。

<https://alwatwan.net/politique/relations-russo-comoriennes-le-pr%C3%A9sident-azali-assoumani-attendu-%C3%A0-moscou-en-octobre.html>

8日 Al Watwan 紙によると、内務大臣は、着任したばかりの中国大使と会談し、両国間の安全保障分野での協力強化について協議した。大臣は中国が独立直後にコモロを承認し、継続的に治安・防災・地方行政など多分野で支援してきたことを評価。

<https://alwatwan.net/politique/coop%C3%A9ration-s%C3%A9curitaire-chine-comores-i-vers-la-signature-d%E2%80%99un-m%C3%A9m%C3%A9morandum-d%E2%80%99entente.html>

8日 La Gazette 紙によると、バングラデシュの駐コモロ大使ザキー・アハドは、アザリ大統領への信任状捧呈を終えたのち、コモロとバングラデシュの協力関係に「新たな勢いを吹き込む」旨を表明した。両国は宗教的には非常に近いにもかかわらず、「強固な友情はいまだ構築されていない」との認識を示し、関係強化の必要性を訴えた。

<https://lagazettedescomores.com/politique/diplomatie-%C2%AB-nous-allons-initier-un-nouvel-%C3%A9lan-de-coop%C3%A9ration-entre-moroni-et-dacca-%C2%BB-.html>

10日 Al Watwan 紙によれば、フランスの新駐コモロ大使エティエンヌ・シャポンが、9日、ムバエ・モハメド外相に信任状の写しを提出し、正式に外交任務を開始した。両者はフランスとコモロ連合の協力関係をさらに強化する意思を再確認。

<https://alwatwan.net/politique/comores-france-i-%C3%A9tienne-chapon-re%C3%A7u-par-le-ministre-des-affaires-%C3%A9trang%C3%A8res.html>

11 日 Al Fajr 紙によれば、ロシアと中国が、国連の第 80 回総会において、マイヨットのコモロ返還を支持する姿勢を示したと報じられている。フランスの海外県として実効支配されているマイヨットについて、両国は国際法と国連決議に基づき、コモロの主権を尊重すべきだと主張。

<https://www.al-fajrquotidien.com/80e-sommet-des-nations-unies-question-de-mayotte-la-russie-et-la-chine-deux-poids-lourds-pour-le-retour-de-mayotte/>

18 日 Al Watwan 紙によれば、財務大臣は世界銀行の駐在代表バリー氏と新任のサウジアラビア大使アルシャムラニ氏とそれぞれ会談し、国の開発政策に関する協力強化を協議した。世界銀行とは、2026～2035 年の新たな「国別パートナーシップ枠組み（CPP）」の策定に向けて、コモロ新興計画（PCE）との整合性を重視したプログラムの再調整が議論され、資金の効果的活用を図るための協議プロセス開始が合意された。サウジアラビアとは、既存の開発プロジェクトの進捗や今後の支援強化について意見交換が行われ、インフラや戦略的分野での継続的な支援を再確認した。

<https://alwatwan.net/economie/partenariat-%C3%A9conomie-et-coop%C3%A9ration-financi%C3%A8re-i-une-double-r%C3%A9ception-au-minist%C3%A8re-des-finances.html>

18 日 Al Fajr 紙によれば、中国大使は、モヘリ島のダル・ナジアを訪問し、モヘリ島知事との会談を行った。この訪問は、両国間の地方自治体レベルでの協力強化を目的としたもので、特に農業、医療、インフラ整備などの分野での協力拡大が議論された。

<https://www.al-fajrquotidien.com/cooperation-decentralisee-rencontre-entre-lambassadeur-de-chine-et-la-gouverneure-de-moheli/>

18 日 Al Fajr 紙によれば、経済大臣が中国大使と会談し、両国間の協力強化について話し合った。この会談はコモロ新興計画（PCE）の実施に伴うもので、インフラ整備や持続可能な開発、投資機会の拡大が議題となった。エネルギー、農業、職業訓練などの重要分野でのパートナーシップの多様化と深化を双方が確認し、コモロが国際的な連携を広げ、包摂的で持続可能な経済発展を目指す姿勢を示した。

<https://www.al-fajrquotidien.com/rencontre-entre-huang-zheng-et-le-ministre-de-leconomie-vers-un-nouvel-elan-de-la-cooperation-sino-comorienne/>

19 日 Al Watwan 紙によると、アザリ大統領は、サウジアラビアの新任大使をベイト・サラム宮殿で迎え、サウジアラビア・リヤドで開催される 2030 年の万国博覧会への公式な招待を受け取った。この招待状は、サウジアラビアのムハンマド・ビン・サルマン皇太子からのもので、コモロがこの重要な国際イベントに参加するよう招かれた。大統領は、万博がサウジアラビアで開催されることに象徴的な意義があるとし、コモロがその成功に貢献する意向を表明。また、アラブ・イスラム世界との協力強化に向けた意志を確認し、特にパレスチナ問題に関する立場を再確認した。

<https://alwatwan.net/politique/exposition-universelle-2030-i-les-comores-parmi-les-invites-%C3%A9-%C3%A0-riyad.html>

23 日 Al Watwan 紙によると、国連総会出席のためニューヨークを訪れているアザリ大統領は 22 日、グテーレス国連事務総長と会談し、1975 年以来フランスが「不法占拠」していると主張するマイヨット島問題を協議した。大統領は仏当局による取り締まりが一部遭難を招いたとの報道に触れ、島周辺の海域での多数の死者を嘆くとともに、国際法を尊重した対話による解決を模索するため国連の支援を要請。グテーレス氏はコモロ側のリーダーシップを評価し、国連が特別委員会を通じて公正で持続可能な解決に取り組む姿勢を確認した。

<https://alwatwan.net/politique/onu/-rencontre-azali-guterres-i-la-question-de-mayotte-au-menu-des-%C3%A9changes.html>

23 日 La Gazette 紙によると、財務・予算・銀行セクター担当大臣は、モロニでサウジアラビアのガラマ大使と会談した。この会談は両国間の二国間関係強化を目的とするもので、大使は経済・文化・宗教分野での協力を深める意欲を示し、コモロとサウジアラビアの歴史的・友好関係を強調した。

<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/coop%C3%A9ration-riyad-moroni-le-ministre-des-finances-re%C3%A7oit-le-nouvel-ambassadeur-d%E2%80%99arabie-saoudite-.html>

25 日 Al Watwan 紙によると、アザリ大統領は、国連演説で現代世界における普遍的価値の崩壊と国際社会の無力さに強い懸念を示し、特にガザでのジェノサイドやマイヨット島での意図的な難破行為、パレスチナ問題、そしてアフリカの植民地主義の残滓としてのマイヨット問題に焦点を当てた。パレスチナに対するイスラエルの軍事行動を「ジェノサイド」と非難し、国際社会の沈黙を厳しく批判。マイヨットについては、フランスの占拠を違法とし、意図的な死亡事故の責任追及を要求した。また、小島嶼国の気候変動に対する脆弱性や、コモロの開発計画「PCE」への支援を訴えるとともに、アフリカが国連安保理に正当な地位を得るべきだと主張。

<https://alwatwan.net/politique/azali-assoumani-%C3%A0-l%E2%80%99onu-i-%C2%ABl%E2%80%99humanit%C3%A9-s%E2%80%99%C3%A9loigne-de-la-vision-qui-nous-animait%C2%BB.html>

25 日 Al Watwan 紙によると、国連総会のマージンでムバエ外相は湾岸協力会議（GCC）事務総長やシンガポール、チュニジア、ドミニカ共和国、オマーンなどの外相と会談し、観光・デジタル・教育・インフラ等の分野での協力強化を推進。特にドミニカ共和国との間では新たに外交関係を樹立する共同声明が交わされた。一方、チャンフィ顧問は「G7+」会合で演説し、平和と安全、経済・社会的レジリエンス、気候正義の3本柱を掲げ、主権的かつ持続可能な開発の重要性を強調した。

<https://alwatwan.net/politique/assembl%C3%A9e-g%C3%A9n%C3%A9rale-des-nations-unies-i-mbae-mohamed-et-djae-ahamada-chanfi-multiplient-les-rencontres-diplomatiques.html>

26 日 Al Watwan 紙によると、24 日、コモロの計画総局長はニューヨークで開かれた持続可能で公正な経済を目指す首脳会議で演説し、世界的な経済・気候・地政学的危機の中で国際連帯の重要性を強調した。平和回復を最優先とし、保護主義の台頭が途上国に悪影響を及ぼしていると警告。国内では 2020 年に始まった「コモロズ・エマージェント計画（PCE）」を紹介し、2026 年までに年 4.8%の経済成長を目標とする一方、外部資金の減少や経済の不安定さが課題と述べた。

<https://alwatwan.net/politique/sommet-biennal-pour-une-%C3%A9conomie-durable-et-%C3%A9quitable-i-les-comores-plaident-pour-%C2%ABun-financement-durable-et-%C3%A9quitable%C2%BB.html>

26 日 Al Fajr 紙によると、マダガスカルでの抗議活動が激化する中、同地に居住するコモロ人コミュニティ、特に多数を占める留学生たちは、治安の悪化により日常生活に深刻な不安を抱えている。彼らは、政府に対し早急な対応と緊急帰国計画の策定を強く求めているが、現時点でコモロ政府は外交的声明の発表にとどまり、具体的な措置は取られていない。現地では「2009 年のような事態を繰り返してはならない」と危機感が高まっている。学生たちは自分たちの安全と将来が軽視されていると感じ、次の閣議で本件が真剣に扱われることを切実に願っている。

3 経済

12 日 Al Watwan 紙によれば、新たに就航するフェリー「ヤメーラ」の就航式がムツ

ムドゥの国際港で行われ、アザリ大統領や UAE 大使らが出席した。全長 54 メートル、乗客 190 人・車両 45 台を収容できるこの船は、ムツアムドゥとモロニ間の海上交通を担い、既存の船「アカディ」と「マリア・ガランタ」を補完する。

<https://alwatwan.net/societe/transports-inter-%C3%AEles-i-les-hautes-autorit%C3%A9s-%C3%A0-l%E2%80%99inauguration-du-bateau-yameela.html>

22 日 Al Watwan 紙によるとモワリ島で、ミレジェレ地域の中心地ニューマシワとワラを結ぶ全長 9 km の道路の再整備工事が 2025 年 9 月 18 日に開始された。工期は 15 ヶ月で、アフリカ開発銀行の資金援助により実施され、中国企業 CGC が工事を担当する。

<https://alwatwan.net/societe/infrastructures-routi%C3%A8res-i-lancement-des-travaux-de-r%C3%A9habilitation-de-la-route-nyumachiwa-wallah-%C3%A0-mwali.html>

29 日 Al Watwan 紙によれば、ムワリ島フォンボニにある造船所で、45 メートル、1,000 トン積みの大型船が建造中で、島での最大規模となる。このプロジェクトは元ムワリ知事モハメド・アリ・サイドが主導し、17 か月前に着工。ムワリ港の拡張に伴い、安全な地域間輸送のため大きな船舶が必要とされている。船は中国から輸入する 700 馬力エンジン 2 基を搭載予定で、2027 年 6 月の進水を目指す。

<https://alwatwan.net/societe/marine-marchande-un-navire-de-1-000-tonnes-en-construction-%C3%A0-mwali.html>

4 社会

1 日 Al Watwan 紙によると、Mvola は 8 月 28 日、コモロの首都モロニのオアシス地区に初の「Pop Mvola（デジタル金融サービス拠点）」を開設した。地元企業 Yas Comores が運営するこの施設では、口座開設、入出金、送金、モバイルウォレット利用などが可能で、銀行口座を持たない人々や中小事業者にも対応。

<https://alwatwan.net/societe/transactions-financi%C3%A8res-i-mvola-inaugure-son-premier-pop-%C3%A0-moroni.html>

3 日 Al Fajr 紙によると、コモロ大学では教員の審議や再試験拒否による無期限ストライキが 2 か月以上続き、2025～2026 年度の新学期開始が深刻に危ぶまれている。教員側の主な要求は、未払い給与の支払い、労働条件の改善、待遇の正当認定などであり、一方的な学費前払いの大幅引き上げも学生・家族の反発を招いている。

https://www.al-fajrquotidien.com/greve-a-luniversite-des-comores-une-rentree-compromise/#google_vignette

16 日 Al Watwan 紙によると、元コモロサッカー連盟会長であり、実業家・社会活動家としても知られた Tourqui Salim 氏が 66 歳で逝去。サッカー界では FIFA 加盟の立役者であり、ワールドカップ関連事業の推進や若者育成を通じて国内スポーツ振興に多大な貢献。事業面では物流会社を設立し、観光業にも貢献するなど地域経済の牽引役を果たした。

<https://alwatwan.net/societe/d%C3%A9c%C3%A8s-de-tourqui-salim-i-la-nation-perd-%C2%ABun-b%C3%A2tisseur%C2%BB-et-%C2%ABun-fervent-serviteur%C2%BB.html>

26 日 Al Watwan 紙によると、タンザニアとの医療協力の一環として、10 月 5 日から 11 日まで、コモロのンヅワニ島で第 2 回タンザニア医療キャラバンが開催される。対象は慢性疾患、皮膚病、神経疾患などで、ホンボ、バンバオ・ムツァンガ、ポモニの 3 病院で無料診察と薬の提供が行われる。昨年のグランドコモロ島に続く開催で、両国の友好と連携強化を目的としており、他の島の住民も受診可能。患者の事前登録もすでに始まっている。

<https://alwatwan.net/sante/sant%C3%A9-publique-ndzuani-choisie-pour-accueillir-la-deuxi%C3%A8me-caravane-m%C3%A9dicale-tanzanienne.html>

29日 Al Watwan 紙によると、ンヅワニ島にあるンガザレ村とサラマニ村で、若者同士の衝突が発生し、2人が死亡、約80棟の家屋が焼失するなど深刻な被害が出た。発端は9月26日夜、ンガザレでの結婚式にサラマニの若者が押しかけたことで喧嘩に発展し、翌日には報復による暴力が激化。犠牲者には休暇中の沿岸警備隊員も含まれる。政府は治安部隊を派遣し、関係者の逮捕と地域の安定化に乗り出している。

<https://alwatwan.net/societe/afrontements-entre-ngadzale-et-salamani-i-deux-morts,-des-habitations-incendi%C3%A9es-et-un-retour-progressif-au-calme.html>

29日 Al Watwan 紙によると、モヘリリ島では10月4日から8日まで、6か月から5歳までの子どもを対象に、はしかと風疹のワクチン接種キャンペーンが実施される。地域保健局とユニセフ、WHOの協力のもと、全体の95%の子どもに接種することを目標に、病院や学校、各地域に固定・移動チームを配置。過去に接種した子どもも含め全員が対象で、未接種者のフォローも行われる。保護者には予防接種手帳の持参が求められ、ワクチンは無料で安全とされている。

<https://alwatwan.net/sante/mwali-4-jours-pour-vacciner-les-enfants-contre-la-rougeole-et-la-rub%C3%A9ole.html>

29日 La Gazette 紙によると、運輸労働組合「Wusukani wa Masiwa」と商業組合「SYNACO」が、政府の交通政策や経済負担増に抗議し、10月1日から無期限の総ストライキを呼びかけた。主な要求は、交通違反罰金の大幅引き上げの撤回、右ハンドル車の規制に伴う補償措置、議会を通さず実施された関税引き上げの見直しなどで、生活コストの上昇に対する広範な不満が背景にある。ストは運輸部門にとどまらず、他の分野にも波及する可能性が指摘されている。

<https://lagazettedescomores.com/soci%C3%A9t%C3%A9/wusukani-wa-masiwa-et-synaco-appellent-%C3%A0-la-gr%C3%A8ve-g%C3%A9n%C3%A9rale-.html>

30日 Al Watwan 紙によると、数週間にわたるストライキの末、コモロ大学の教員組合 Sneuc は教育省との一部合意を受けて無期限ストライキの一部解除を決定し、2024-2025年度の終了に向けて審議会の開催や追試の日程確定など段階的に学内活動が再開されることになったが、いまだ未解決の要求も残されており、2025-2026年度の新学期が公式に開始されたにもかかわらず、前年度の結果も出ていない状況に対し、一部の学生からは省の対応の不透明さや無関心さに対する不満の声が上がっている。

<https://alwatwan.net/education/universit%C3%A9-des-comores-i-le-sneuc-l%C3%A8ve-le-mot-d%E2%80%99ordre-de-gr%C3%A8ve-illimit%C3%A9.html>

(了)